

(A)

〔表紙〕
天保日記録

(中略)

〔天保十二年〕
十二月

一 天はこ巻駄、金巻両巻分三朱ニ而一八俵売、十八日・十九日、大雪ニ八寸余ふる、同廿四日、節分、下旬、たはこ下ケ、米・雁喰上ケル

天保十三壬寅

正月大

一元日、天気、六日、雨ふる也、廿日過、雪なし、麦満足

二月

一 七日、ひがん、此頃暖氣、一麦両ニ巻石九斗位、十五日、「雪四五寸程ふる、酒粕」兩ニ九俵、廿三日、辰巳風吹、「橋弘ひ、麦兩ニ式石余」塩小俵金三朱ト百文位

三月

一 十四日、大夕立、廿日、たはこ(唐)まき附、此頃大暑なり、「廿三日、八十八や、塩小俵金巻分」位、殊の外暑、廿六日、夕顔

まき附

四月

一 七日夕、蚕捕、九日、蚕捕、十日ニも捕、十一日、綿まき、十三日、後蚕捕、廿五日「原豆うへ、下旬頃、御公儀方」仰出候(布)絹ふ井羅しや・(紗)びろふと・(天鰯)ちりめん・(蝦子)とんす」停止ニ相成、井諸色」二割下ケニ仰付られ候

五月

一 節句、先蚕船休ミ、「此宵日種まき、六日、粟」まき、十一日、田うへ、此頃「先蚕庭休ミ、中旬」雨天続、十八日、十二桑ニ而「七十枚余揚ル、十九日、八十枚余」あける、桑巻駄式三百位「同廿四日、半夏生、此日四十」枚余揚、廿七日、後蚕揚、都合式百六十枚程揚、蛹「量數五拾枚、中旬より」雨天多し

六月

一 十日、麦こなし終、麦石「式拾式石余、十三日、土用入」此方天氣、十五日と冷氣「十九日迄、耕作一番通し」此頃絹服・銀類停止、廿日、こなし物終、小麦「式石余、下旬、天氣曇ル」涼し、廿七日、大根まき

七月

一 二日、蛹十七貫六百匁、代金拾五兩ニ売、盆前天氣、蛹下直、盆中大夕立、「同十七日、たはこ作終、此月」中十七日、早稲方穂そろい、「干瓢百文ニ七十匁くらい、二百十日、廿八日、残暑強

八月

一 干瓢兩ニ六貫目位、同十六日、「ひがん、廿三日、原小麦」まき、此月、風雨順、時、たはこ直段下ケ、蛹高「直ニ成ル

九月

多葉粉三百三十簾

一 六日、たはこ抓始、八日、終、「上旬、雨天多し、稗四石」余陽氣暖、九日、夜「霜降る、十六日、土用入、十七日、麦まき始、粟餅・ウル共五石、赤豆巻石五斗、雁喰六俵与三斗余蕎麦」八斗、大豆四俵余、廿八日、「麦まきしまい、大麦五十」五塚、小麦三十式塚まく、「此頃暖氣ニ而、晴天」続、雁喰兩巻石巻斗六升、雨上旬とふらす

(後略)